

算術式の値を評価してみて、その値が負か、ゼロか、正かによりつぎのよ
うに分岐する。

(AE) < 0 文の番号 n_1 へ (GO TO n_1)

(AE) = 0 文の番号 n_2 へ (GO TO n_2)

(AE) > 0 文の番号 n_3 へ (GO TO n_3)

[例]

```

6 | IF (X-Y) 10, 20, 30

```

X - Y < 0 文の番号 10 へ (GO TO 10)

X - Y = 0 文の番号 20 へ (GO TO 20)

X - Y > 0 文の番号 30 へ (GO TO 30)

```

6 | IF (X) 10, 20, 30

```

X < 0 文の番号 10 へ (GO TO 10)

X = 0 文の番号 20 へ (GO TO 20)

X > 0 文の番号 30 へ (GO TO 30)

6-5 論理 IF 文 (logical IF statement)

一般形 IF (LE) S

ここに、LEは論理式(logical expression)であり、Sは実行文である。ただし、実行文とはいっても、DO文および論理IF文を書いてはならない。論理式を評価してみて、その値が真であるか、偽であるかにより、実行順序を変更する。

論理式(LE)が真であればSなる文を実行した後、つぎの文へ移る。ただし、Sがプログラムの流れを変える文(たとえば、GO TO文)であるときは、指定された文の番号へ分岐する。

論理式(LE)が偽の場合には、Sなる文は実行せず、IF文のつぎの文が実行される。

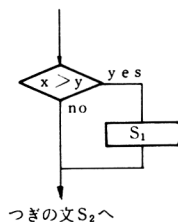
[例]

```

6 | IF (X.GT.Y) W=X
   | IF (X.EQ.Y) W=X
   | IF (X.LT.Y) W=Y

```

6-6 分岐のための いろいろな使い方 の例



ただし、 n_1, n_2, n_3, \dots は文の番号、 s_1, s_2, s_3, \dots は実行文を示す。

(1) IF (X-Y) n_1, n_1, n_2 (2) IF (X.GT.Y) s_1

	n ₂	s ₁		s ₂	
	n ₁	s ₂		
			